

家族農業経営における女性の成長過程に関する研究

～北海道訓子府町を事例として～

共生基盤学講座 協同組合学分野

中村 祥世

【背景と目的】

農業に女性の力は欠かせない。近年では農家戸数が減少するなかで、その存在はますます重要であり、女性が家族農業経営のなかでさまざまな役割を担っていくことが求められている。しかし、その場合の女性の能力の育成については男性ほどかえりみられておらず、社会的な支援体制も整っていない。女性の能力向上を図るためには、まず、女性がどのようにして自分の家の経営に深く関わっていくようになるか、その成長過程を明らかにする必要がある。そこで、本論文では、女性が家族経営において担っていく役割の変化についてその過程を明らかにし、女性がその過程を経ることになった要因を分析する。そして最後に現段階での支援について整理する。

【方法】

訓子府町で農業に従事する20代から60代までの女性88名を対象に、現在従事している作業や経営に対する意向についてアンケート調査を行った。また、女性の成長過程として、手作業・機械作業補助、特定作物の管理、簿記の記帳、税の申告などのいくつかの段階を想定し、11名の女性を対象に、その段階を経験した年齢と、その時の要因と支援について聞き取り調査を行った。

【結果と結論】

家族農業において女性は、まず、手作業・機械作業などの単純労働からはじめ、その後、簿記の記帳や税の申告など経営全体に関わる役割を担っていくようになることが明らかになった。この過程は、後継者が経営主になる過程と同じだが、必ずしもすべての女性がこの過程をたどるわけではなく、後継者が経営主になる過程のように一定の階梯をもたないことが女性の成長過程の特徴である。また、その要因については女性たちの自主的な意向よりも、夫の判断などの外部的な要因によるところが大きいことが明らかになった。さらに、支援については、女性たちの役割としてその重要性が認識され、課題が目に見えているものについてはすでに何らかの支援体制が整えられているものの、女性たちが重要だと考えているにもかかわらず、その役割の重要性が社会的に十分に認識されていないものについては、支援体制が不十分であると考えられた。今後は、女性たちの意向も踏まえ、女性たちが自主的に多様な役割を担い、自身の成長を感じながら生きがいをもって農業に関わっていけるような仕組みや支援が必要であると考えられる。